

第 9 回 日向東臼杵広域連合次期広域最終処分場建設検討委員会 議事要旨

日時：令和 7 年 12 月 23 日（火） 13:30～15:30

場所：西郷ニューホープセンター（美郷町）

■ 出席者

- | | | |
|-------------|-------|-------------------------|
| (1) 委員 | 土手 裕 | （宮崎大学工学部教授） |
| | 原田 隆典 | （宮崎大学工学部名誉教授） |
| | 佐伯 雄一 | （宮崎大学農学部教授） |
| | 山田 大志 | （NP0 法人五ヶ瀬川流域ネットワーク理事長） |
| | 池田 忠 | （美郷町花水流地区 区長） |
| | 松本 恵喜 | （美郷町花水流地区） |
| | 小野 和久 | （美郷町小川地区） |
| (2) 事務局 | 渡部 憲二 | （日向市 環境政策課 課長） |
| | 奥原 孝雄 | （日向市 環境政策課 課長補佐） |
| | 小林 英彦 | （門川町 環境水道課 課長） |
| | 黒田 和幸 | （美郷町 町民生活課 課長） |
| | 中田 芳樹 | （美郷町 町民生活課 主幹） |
| | 田丸 光夫 | （諸塚村 住民福祉課 課長） |
| | 黒木 治実 | （椎葉村 税務住民課 課長） |
| | 椎葉 洋介 | （椎葉村 税務住民課 主幹） |
| | 黒木 悟 | （広域連合 事務局長） |
| | 上杉 幸司 | （広域連合 局長補佐） |
| | 吉玉 賢司 | （広域連合 業務第 1 係長） |
| | 黒木 俊介 | （広域連合 業務第 1 係主査） |
| | 長友 和博 | （広域連合 業務第 1 係主査） |
| (3) コンサルタント | 平川 猛 | （株式会社建設技術研究所） |
| | 和田 崇史 | （株式会社建設技術研究所） |

（以上、敬称略）

■ 内容

- 1 開会
- 2 あいさつ（委員長）
- 3 協 議（議事進行：委員長）
 - （1）前回委員会の確認
 - （2）基本設計中間報告について
 - （3）測量調査及び補償調査の中間報告について
 - （4）今後のスケジュールについて
 - （5）その他
- 4 閉会

■ 配付資料

- 資料 1：第 8 回建設検討委員会議事要旨
- 資料 2：基本設計中間報告（概要版）
- 資料 3：測量調査及び補償調査中間報告
- 資料 4：今後のスケジュール

1. 開会

○配布資料の確認

2. あいさつ

○土手委員（委員長）より挨拶

3. 協議事項

(1) 前回委員会の確認

○事務局より【資料1】に基づき説明。

各委員：特に意見無し

(2) 基本設計中間報告（概要版）について

○事務局より【資料2】に基づき説明。

委員：停電の時のリスクはどう考えているのか。

事務局：最終処分場において停電における最大のリスクは浸出水漏水である。ポンプが止まることにより、原水槽などから浸出水が外部へあふれ出す可能性がある。しかし、本施設は被覆型最終処分場であり、浸出水の発生源は散水によるものであるため、停電時は散水も停止することから、浸出水の発生量が抑制され、浸出水の外部への漏水リスクは非常に低い。

委員：停電により処理できていない浸出水が発生するのではないか。

事務局：返送管を設けているため、停電により処理できなかった水は、電気が復旧してから返送管で最初の工程に戻し、再処理を行う。

委員：水処理のフローの順番は一般的か。

事務局：水処理フローは一般的な順序である。

委員：脱窒処理における酸化還元電位の具体的な設定値はいくつか。

事務局：詳細な設定値については、別途確認の上、次回検討委員会で回答する。

委員：放流時のEC値の目標値が示されていないが、どのように考えているか。

事務局：現計画では脱塩処理工程を含んでいないため、EC値の測定は予定していない。ただし、雨水貯留槽の水と混ぜて放流するなどの工夫を検討したい。

委員：放流先の河川環境のモニタリング位置は下流すぎるのではないか。地域の特性を考慮した設計を望む。

事務局：頂いた意見を考慮して、再検討し、次回検討委員会で報告する。

委員：種子吹付は在来種や外来種があるが、在来種でお願いしたい。

事務局：ご意見を踏まえて検討し、次回検討委員会に報告する。

委員：敷地の全周にフェンスを設置しない計画だが、動物の侵入対策は不要か。

事務局：過去の事例から、フェンスは動物侵入に対し限定的な効果しかない。埋立

地や水処理施設は屋根や壁で覆われるため、動物による被害リスクは低いと判断している。急斜面が多く、全面的にフェンスを設置するのは経済的ではないため、重要な部分のみ保護する方針である。

- 委員 : 処理水の水質が基準を満たさなかった場合に元に戻すプロセスは自動化されるのか。
- 事務局 : 自動化は可能である。ただし、自動運用は不正アクセスのリスクを考慮する必要があるため、自動化するか人が判断するか今後詳細を検討する。
- 委員 : 搬入道路は片側 1 車線で離合可能か。
- 事務局 : 工事車両の離合も考慮し、片側 1 車線で離合可能な設計としている。
- 委員 : 資料の安定計算断面図にある緑色の四角は何を指すのか。
- 事務局 : 緑の四角は通行する車両の荷重を示している。
- 委員 : 湧水箇所に設置する吹付砕工について、地下水の排水路は確保されるのか。
- 事務局 : 吹付砕工の内部に地下水を抜くための集水管を設置し、側溝等へ導水する計画である。
- 委員 : 法面の各小段に排水設備がないと、植生した箇所で水が溢れたり、地盤が緩んだりする懸念がある。集水施設の設置は必要ではないか。
- 事務局 : 各小段に小段排水路を設置し、法面にも縦排水溝を入れて、途中で水が溜まらない構造とする。
- 委員 : 水処理フローに E C 計が取り付けられているが、一般的な値はどの程度か。
- 事務局 : 次回検討委員会で報告する。

(3) 測量調査及び補償調査中間報告について

○事務局より【資料 3】に基づき説明。

- 委員 : 以前の住民説明会で「連絡が取れない地権者がいる」との話があったが、その後の状況はどうか。
- 事務局 : 地権者本人またはその家族等、関係者全員と接触はできている。一部、調査への承諾が得られていないため敷地内に立ち入っていないケースはあるが、8 割以上の方からは承諾を得ている。

(4) 今後のスケジュールについて

○事務局より【資料 4】に基づき説明。

- 各委員 : 特に意見無し

(5) その他について

○事務局より説明。

事務局 ： 公開で会議を開催しているため、記者発表は行わない。議事録は後日委員の確認を経て、資料と合わせて公表する。

4. 閉 会

〔了〕

前回委員会における質疑への回答

	質疑	回答
1	脱窒処理における酸化還元電位の具体的な設定値はいくつか。	メーカーが浸出水原水濃度に合わせて設定するため明確な値の提示は困難ですが、脱窒槽ではろ材深部を嫌気状態に保つ必要があり、ORP -100mV 前後を目安に運転するのが一般的です。
2	放流先の河川環境のモニタリング位置は下流すぎるのではないか。	建設候補地から耳川へ放流される地点から大内原ダムまでの範囲でモニタリングを実施します。
3	種子吹付は在来種でお願いしたい。	切土法面・覆土仮置場については、ご意見を踏まえ在来種(ヨモギ、イタドリ、ススキ、メドハギ等)を採用します。ただし、盛土法面部は降雨による侵食リスクが高く、早期に被覆効果を発現させる必要があるため、常緑性の外来種(クリーピングレッドフェスク等)の使用を基本としています。詳細は基本設計において説明します。
4	水処理フローのEC計において、一般的な値はどの程度か。	現日向市最終処分場の浸出水原水で概ね2000mS/m となっており、処理施設内の浸出水原水では概ね同程度となると想定しています。